デザインの現場

DESIGNERS' WORKSHOP

隔月刊
vol.25 no.157
2008 2 Feb.
第157号 平成20年2月5日発行（隔月刊）年6回偶数月5日発行 1998年3月20日第3種郵便物認可 ISSN0910-1950

特集

デザインリニューアルで勝負!

23の成功事例を徹底解剖

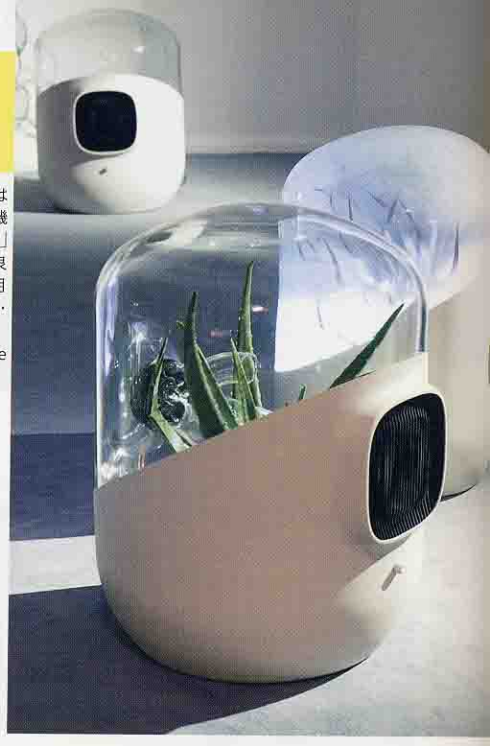
日本郵政｜BMW MINI｜資生堂パーラー｜紀ノ国屋 ほか

佐藤可士和｜永井一史｜シンガタ｜仲條正義｜森本千絵 ほか

特別記事 ヘラ・ヨンゲリウスの最新作／駒形克己が演出するムナーリ展

次号2008年3月27日発売

求人情報サイトOPEN!
www.bijutsu.co.jp/dezagen



David Edwardsの研究によりNASAの製品とは空気の経路を変えた家庭用植物性空気清浄機Bel-Airは、2007年12月に「Le Laboratoire」で発表され、2009年の商品化を目指して改良のためのテスト販売を開始した。2008年2月からはMoMAの「デザイン＆エラスティック・マインド展」に出品される。
Photo : ©Marc Domage

「O」
「Les Éléments」シリーズの1点。2006年。酸素を表す「oxygen」の頭文字から名付けられた「O」は、空気中の酸素濃度を感知し、不足していると明かりがついて藍藻類スピルリナ・プラテンシスの光合成を活発にさせる。
Photo :©Véronique Huyghe

from PARIS

NASAの研究を家電に

マチュー・レアヌールの植物性空気清浄機「Bel-Air」

取材・文／桜井みどり
TEXT by MIDORI SAKURAI

汚れた空気を吸い込み、植物の葉と根、湿気という3つのフィルターを通して浄化した空気を再び室内に吐き出す。「Bel-Air（きれいな空気）」という名をもつこのミニ温室は、NASAが宇宙飛行士の健康保持のため、1980年代に始めた研究を応用したもの。フランス人デザイナー、マチュー・レアヌールがアメリカ人科学者デヴィッド・エドワーズ（ハーバード大学）の協力で開発した新しいタイプの家庭電化製品である。

レアヌールは卒業制作で、当時デザイナーにとって不可侵の要塞と思われていた「薬」をテーマに取り上げた。薬の色や形やパッケージではない。どうしたら飲み忘れないか、一度にどれだけの量を摂取しなければならないか、それらがデザインによって一目でわかるように工夫されたオブジェは、患者とその病気との関係性に着目した異色のプロジェクトだった。2006年には冬季の光欠乏症や騒音公害など、環境と人間の間にある軋轢を、科学とデザインの融合によって解消する「レゼレマン（Les Éléments）」シリーズを発表。どちらも社会性があると同時に、ある特定の個人の欲求に絞り込んで対処する姿勢に特徴がある。

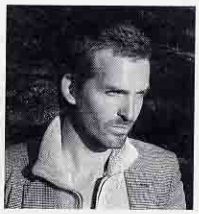
「6人兄弟の末っ子として育ったため、社会の一員として分離することなく同時に隣人（兄弟）とはまったく違う個人である、ということを常に考えるようになったのでは」と、彼は自己分析する。

その仕事ぶりを見て、科学者とクリエイターを結びつけるスペース「ル・ラボラトワール」をパリに開いたエドワーズが、インテリジェンスというテーマで何かやらないかと持ちかけた。レゼレマンの「O（オー）」（写真左上）でも取り上げた、空気と自然界の知性＝植物の清浄効果に注目し、調べ始めてまもなくNASAの特許を発見した。それは宇宙船を構成する絶縁体、防炎材などが発する有毒ガスを解消する研究だったが、彼は現代の住居がほとんど同じような材料でつくられていることに思い当たった。

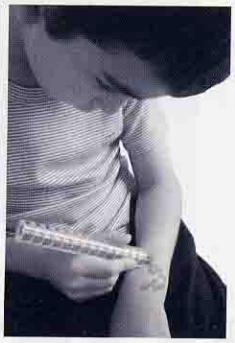
そして1年後に誕生したのがこの「Bel-Air」である。空気の浄化にもっとも効果的なオリヅルラン、スパティフィラム、ドラセナ・マルジナタはどこの園芸店にもあるポピュラーな観葉植物で、丈夫で長持ちする。しかもこの自然のフィルターは、有毒成分を内部で分解するため汚れない。つまり枯れるまでは交換不要だ。

医者や科学者になろうとは思わなかったのかと尋ねてみたところ、レアヌールは次のように答えた。

「医者は考えました。体や個人に直接関わるからです。でも人間からかけ離れたところで分子や宇宙を研究することにはそれほど関心がありません。科学、医学、エコロジー、そういったものはすべて人間を理解し、人間に役立つものをつくるための道具。自分が今デザインを通してやっていることは医者と同様で、ときに診断ですし、ときに薬の投与だと思いますよ」



Mathieu Lehanneur
1974年フランス生まれ。2001年ENSCI-Les Ateliers（国立高等工業クリエイション学校）卒。卒業制作以来、医学や科学を積極的にデザインに取り込んでいる。2006年VIA（仏政府のインテリア産業振興団体）の助成金を受けて開発した住環境の改良を図るシリーズ「Les Éléments」はその象徴的作品。このほか、バコ・ラバンヌ、山本耀司、イッセイミヤケなどの商品企画にも研究成果を提供している。
www.mathieulehanneur.com



「C°」
［左］「Les Éléments」シリーズ。2006年。周りにいる人間の体温の違いを感知し、冷えているところだけに赤外線をあてる暖房器具。例えば3人の中の1人だけが外出から帰って寒い場合、その人だけを暖める。
Photo : ©Véronique Huyghe
［右］「Feutre thérapeutiques（治療フェルトペン）」
2001年。慢性的な痛みに対するペン型塗り薬。1日分ずつカートリッジに詰められていて、痛いところに好きなことを書く。薬効成分が皮膚から吸収されると書いたものは消える。
Photo : ©Véronique Huyghe